

感染性腸炎は古くから取り上げられてきたテーマであるが、今回の特集の内容を拝見すると最近の動向や新しい知見が詳細に記載されており、読者にとっては大いに参考になると思われる。感染性腸炎は臨床症状や病歴を詳細に聴取すれば、比較的容易に感染性腸炎であることを疑うことが可能で、さらに臨床検査（培養検査、血清診断など）やX線および内視鏡所見を加味すれば、通常診断に迷うことは少ない。しかし、本号の中に示されているように、Crohn病、潰瘍性大腸炎、虚血性大腸炎などと臨床像が一見類似した感染性腸炎

が存在することをよく認識しておかなければならない。特に感染性腸炎がCrohn病や潰瘍性大腸炎と誤診した場合、steroid、免疫調整剤、infliximabなどを投与して病状を悪化させるおそれがある。したがって日常臨床で炎症性腸疾患と考えられる患者に遭遇した場合は、常に感染性腸炎を念頭に置きながら鑑別診断を行う必要がある。

蛇足ではあるが、本文中に明らかに血便と表現すべきところを下血と記載した論文が散見された。血便(hematochezia)と下血(melena)という用語は正確に使い分ける必要がある。

胃と腸

11月号(第43巻・第12号) 予 告

 発売予定 11月25日
 定 価 2,625円

主題／早期胃癌発育の新たな分析—内視鏡経過例の遡及的検討から

- 序 説 早期胃癌発育の新たな分析 福岡大学筑紫病院・消化器科 松 井 敏 幸
- 主 題 内視鏡経過例における胃癌発育の遡及的検討
- 肉眼型からみて 札幌厚生病院・胃腸科 萩原 武・他
- 内視鏡経過例における胃癌発育の遡及的検討
- 深達度診断からみて 福岡大学筑紫病院・消化器科 長浜 孝・他
- 内視鏡経過例における胃癌発育の遡及的検討
- 粘液形質からみて 多摩がん検診センター・消化器科 入口 陽介・他
- 内視鏡経過例の遡及的検討から
- 背景粘膜からみて 早期胃癌検診協会中央診療所 中島 寛隆・他
- 早期胃癌の自然史に関する前向き研究
- 胃癌診療への考察 大阪府立成人病センター・調査部 津熊 秀明・他
- 病理学的に逆追跡可能な胃癌発育の解析 杏林大学・病理学 大倉 康男・他
- 病理学的に逆追跡可能な胃癌発育の解析 福岡大学筑紫病院・消化器科 松井 敏幸・他
- Helicobacter pylori* 除菌後に発見された胃癌症例の
- 臨床病理学的特徴 川崎医科大学・食道・胃腸内科 鎌田 智有・他
- 主題症例 11年間6か月間粘膜内にとどまったIIc型胃癌の1例 福井県立病院・外科 大槻 忠良・他

胃と腸 (第43巻 第11号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

📠 本誌編集室直通(03)3817-5714

FAX (03)3815-7802/3815-7982

E-mail: itc @ igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/itocho/

2008年10月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,625円(本体2,500円+税5%)

2008年年ぎめ予約講読料36,410円

(増刊号5,985円を含む13冊)(送料弊社負担)

📞 販売部直通(03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷(株)

☎(03)3813-5001

広告取扱 (有)文京メディカル ☎(03)3817-8036

- ・早期胃癌研究会は、当研究会、早期胃癌検診協会およびエーザイ株式会社の三者の共催で行われている。
- ・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.
- ・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- ・JICIS < (株)日本著作出版権管理システム委託出版物 >
 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。
- ・医学書院ホームページ(インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp> (担当) 能藤・天野・塩田・中田